

令和6年度 第2回佐賀県教育センター運営協議会



< 説明資料 >

1 令和6年度事業評価中間報告及び 改善のポイント

1 令和6年度事業評価中間報告 及び改善のポイント

(1) 研修課

- 総合企画担当
- 教職研修担当

令和6年度 研修課 事業評価 中間報告

番号	事業名	評価項目	指標	評価結果	備考
1	必須研修	初任者研修受講者の評価	平均3.4以上	達成 (3.79)	受講者322名
		中堅教諭等資質向上研修受講者の評価	平均3.4以上	※達成 (3.62) 第2回合同研修まで	受講者175名
		2年目研修受講者の評価	平均3.4以上	達成 (3.83)	受講者296名
		3年経験者研修受講者の評価	平均3.4以上	達成 (3.71)	受講者333名
		養護教諭研修受講者の評価	平均5.1以上	達成 (5.60)	受講者60名
		教育行政職員研修受講者の評価	平均5.1以上	達成 (5.19)	受講者437名 ※延べ人数
		職務別研修受講者の評価	平均5.1以上	達成 (5.28)	受講者1,313名
		課題別研修受講者の評価	平均5.1以上	達成 (5.66)	受講者252名

※評価はアンケート結果(経験年数別研修は4件法、その他は6件法)による

令和6年度 研修課 事業評価 中間報告

番号	事業名	内容・評価項目	指標	評価結果	備考
2	希望等研修	希望等研修受講者の評価	平均5.1以上	達成 (5.46)	受講者3,284人
8	インターネット活用	教育センターWebからの情報提供 教育センターWebの総アクセス件数	年間アクセス数 350万件以上	達成 (367万件)	R6. 4月～ R6. 11月まで

令和6年度事業の概要

令和6年度 事業報告

研修課

研修種別	R6実施本数		R5実施本数	
	研修種別	本数	研修種別	本数
初任者研修校外研修 (小)	集合研修	4本	集合研修	4本
	オンデマンド研修	1本	オンデマンド研修	1本
初任者研修校外研修 (中高特)	集合研修	5本	集合研修	5本
	オンデマンド研修	1本	オンデマンド研修	1本
中堅教諭等資質向上研修	集合研修	2本	集合研修	2本
	リモート・オンデマンド 研修	1本	リモート・オンデマンド 研修	1本
2年目研修	集合研修	1本	集合研修	1本
3年経験者研修	集合研修	1本	集合研修	1本
養護教諭経験年数別研修 <small>※職務に関する研修のみ</small>	集合研修	9本	集合研修	8本
	リモート研修	1本	リモート研修	2本
教育行政職員研修 <small>※職務に関する研修のみ</small>	集合研修	9本	集合研修	7本
	リモート研修	5本	リモート研修	7本
	オンデマンド研修	4本	オンデマンド研修	4本

研修種別		R6実施件数	R5実施件数
職務別研修 (17本)	集合研修	17回	17回
	リモート研修	6回	8回
	オンデマンド研修	3回	3回
課題別研修 (7本)	集合研修(半日オンデマンド含む)	7回	7回
	リモート研修	2回	2回
希望等研修	集合研修	69本	67本
	リモート研修	24本	26本
	オンデマンド研修	3本	9本
	取りやめ及び中止	0本	4本

必須研修(経験年数別研修、教育行政職員研修)

- 初任者研修
- 中堅教諭等資質向上研修
- 2年目研修
- 3年経験者研修
- 養護教諭経験年数別研修
- 教育行政職員研修

上記の研修について各職種、各キャリアステージに応じた研修を当初の計画通り実施でき、目指す資質の向上を図ることができた。

必須研修

●職務別研修

教職員の職務に応じて求められる専門的な知識や技能、企画立案及び運営、事務処理等の能力の向上を図るために、職務別に実施する。

◆17の研修、全て実施。

必須研修

●課題別研修

【小学校新任理科担当教諭研修】

「初めて理科の授業を行う教諭」を対象として、佐賀市、佐賀市を除く東部地区、西部地区、北部地区の4地区に分け、同内容を4回実施

◆繰り返し確認が必要な内容をオンデマンド等で提供し、集合研修を半日で実施

【中・高新任理科教諭研修】

新規採用の理科担当教諭を対象として、1日研修を実施

【小学校新任家庭科担当教諭研修】

「初めて家庭科の授業を主担当として行う教諭」を対象として、東部地区、西部地区及び北部地区の2地区に分け、衣生活と食生活の内容をそれぞれ半日研修として実施

◆衣生活分野はセンターで実施、食生活分野は各学校にてリモートで実施

◆目的を踏まえ、全ての課題別研修において、欠席者に対し、センターにて代替研修を実施

希望等研修

【本講座・公開講座・出前講座】

- ◆「教科・領域等の専門的かつ実践的指導力の向上を図る」ことを目的とし、本講座94本、公開講座1本、出前講座1本（計96本）を計画し、実施。
- ◆リモート研修24本、オンデマンド研修3本を実施。
- ◆「STの所属校で行われる講座」として授業講座を21本実施。

令和7年度事業について

必須研修(経験年数別研修)

●初任者研修

校外研修12日のうち、共通研修5日と選択研修1日を実施する。

●中堅教諭等資質向上研修

校外研修10日のうち、共通研修6日と自己課題解決研修(選択研修)4日を実施する。

●2年目研修

校外研修3日のうち、フォローアップ研修1日と選択研修2日を実施する。

●3年経験者研修

校外研修3日のうち、全校種合同研修会1日と企業福祉施設等体験研修2日を実施する。

●養護教諭経験年数別研修

経験年数に応じた研修を行う。

●教育行政職員研修

教育行政職員を対象とした階層別研修等を実施する。

上記の研修について、各職種、各キャリアステージに応じた効果的な研修となるように研修内容を計画する。

必須研修

●職務別研修

教職員の職務に応じて求められる専門的な知識や技能、企画立案及び運営、事務処理等の能力の向上を図るために、職務別に実施する。職務や研修内容に応じてオンラインでの研修を設定したり、実施時期や内容の精査、検討を進めることで受講者の負担軽減を図る。

※ 20回(14本)の研修のうちリアルタイム・オンライン研修3回、オンデマンド研修3回を実施予定。(R6は、26回(17本)のうち、リアルタイム・オンライン研修6回、オンデマンド研修3回)

●課題別研修

時代の変化や社会の要請に応じた研修として、児童への安全指導について実技を通して理解を深める研修を行う。実技を伴うため、多くを対面研修として進める。現場の負担を考慮し、繰り返し確認が必要な内容についてはオンデマンドや手引き等を活用する。

希望等研修

【本講座】

- ◆「教科・領域等の専門的かつ実践的指導力の向上を図る」ことを目的とし、本講座88本（R6：96本）を設定
※うち、リモート研修 19本（R6：24本）、オンデマンド研修 3本（R6：3本）を予定
- ◆課業日においては現場の負担が少ない半日研修を充実させ、1日研修はできるだけ長期休暇中に実施する。
- ◆スーパーティーチャーを活用し、ニーズの高い授業講座を推進する。
- ◆オンライン研修に必要なパスワードの連絡や、追加資料の配付等については、新教育情報システム（SEI-Netメール）を活用する。

インターネット教育活用事業

【R7年度】

引き続き、教育センターWebにより、教育に関する最新情報や研究成果等を発信し、県内教職員の「教育情報ポータルサイト」としての活用を目指す。

- ◆教育センターWebサイトの運用
 - ◆各種教育情報の発信
 - ◆「受講者専用ページ」及び「研修ファイルマネージャー」によるオンライン（オンデマンド・リモート）研修の実施
-
- ・ Web運用総括を教職研修担当で行い、ページの更新は各担当で行う
 - ・ 年度当初に、情報担当所員で担当割を行う

令和7年度 「新たな教師の学び」について

研修課

令和4年度 佐賀県教員育成協議会を1回開催

上記により、現行の佐賀県教職員の指標について協議し、策定。

令和5年度 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励の開始

研修受講履歴記録システム及び教員研修プラットフォーム（通称Plant）の利用準備

令和6年度 Plantの部分的な機能の運用開始及び次年度全機能運用開始に向けた準備

令和7年度 Plantの全機能の運用開始及びPlant利活用に伴う課題等の検討・整理

(2) 教育支援課

- 研究調査担当
- 生徒支援担当

令和6年度 教育支援課 事業評価 中間報告

番号	事業名	内容・評価項目	指標	評価結果	備考
3	プロジェクト研究	プロ研委員、センター所員の取組意欲、理解度、活用意識	平均3.4以上	未確定 (2月確定予定)	調査対象 委員17名
4	個別実践研究	センター所員の取組意欲、理解度、活用意識	平均3.4以上	未確定 (2月確定予定)	調査対象 所員11名
5	学校支援	学習状況調査の結果の分析・活用に係る 学校支援 支援校教員の理解度、キーワードに沿った項目	平均3.4以上	達成(3.82)	調査対象 1,028名 支援実施 59校
6	学校支援	教育相談・生徒指導、特別支援教育に係る 学校支援 支援校教員の理解度、効用感、活用意識	平均3.4以上	達成(3.87) (12月2日現在)	調査対象 1,484名 支援実施 88件

令和6年度 教育支援課 事業評価 中間報告

番号	事業名	内容・評価項目	指標	評価結果	備考
8	図書資料室管理	県内教職員の利用の促進 教科書展示会の実施	評価しない	—	
9	広報業務	教育センターメールマガジン 「ミネルバ」の発信 SNSアプリ「LINE」による情報発信	評価しない	—	

令和6年度事業の概要

令和6年度 教育支援課 事業の概要

<研究調査担当><生徒支援担当>

3 プロジェクト研究(2か年計画1年目)

センター所員と研究員(学校の教職員)とでプロジェクトチームを組織して進める。

○小学校 国語科、算数科 中学校 国語科、数学科、英語科

4 個別実践研究(1か年計画)

センター所員がチームを組んで、原籍校と連携を図りながら進める。

○小学校 算数科、社会科、図画工作科、外国語科、道徳科、学校保健

○中学校 理科、音楽科、美術科、技術・家庭科(家庭分野)、道徳科

【プロジェクト研究】小学校：国語科、算数科 研究主題 中学校：国語科、数学科、英語科 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図るためのコンテンツ開発

○プロジェクト研究コンテンツ（一部）

理論編

実践編

令和6年度 在籍指導センター プロジェクト研究(小学校算数科教育研究委員会)

小学校 算数科

小学校算数科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図るためのコンテンツ開発

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力を育て、数学的活動を通して、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることが大切である。

その際、「数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に扱う問題を見出し、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り形成するなどの学習の充実を図るようにしよう。」

『小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 算数編』p.32

小学校算数科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「主体的な学び」の視点

児童自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりするなどして、「主体的な学び」の視点

「対話的な学び」の視点

数学的な表現を柔軟に用いて表現し、それを用いて筋道を立てて説明を理解したり、それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合いを高めたり、事柄の本質を明らかにしたりするなど、自らの考えや意見を出し合う。

「深い学び」の視点

日常の事象や数学の事象について、「数学的な見方・考え方を働かせ、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、意味の理解を深めたりするなど、新たな知識・技能を見いだしたり、それらと既習の知識や態度が変容しているか。

『小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 算数編』

「深い学び」の視点に関して、学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え」や「数学的な見方・考え方を、習得・活用・探究という学びの過程の中で身につけて、より質の高い「深い学び」につなげることが重要である。

「数学的な見方・考え」とは、
「数学的な見方・考え」……事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念や本質を捉えること
「数学的な考え方」……目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、問題の過程を振り返り、よりよく解決できるように、総合的・発展的に考えること

『小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 算数編』

令和6年度プロジェクト研究(小学校算数科教育研究委員会)では、上記の観点から「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図るべく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善コンテンツを開発している。

令和6年度 在籍指導センター プロジェクト研究(小学校算数科教育研究委員会)

小学校 算数科

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるために

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の1つのアプローチとして、「児童の学びの姿」と、その学びの姿を実現する「教師の働きかけ」の双方の観点から授業改善を図ることが有効だと考えられます。双方を行き交いながら、授業改善を行い、数学的に考える資質・能力を育成していきましょう。なお、本プロジェクト研究において、以下の資料を作成しました。授業改善を図る参考資料として御活用ください。

児童の学びの姿	教師の働きかけ(例)
「学ぶことに興味や関心をもつ。」	・日常の事象や算数の学習場面から、児童が自ら問題を見いだす機会を設ける。
「問題の解決に向けて解決や結果の見通しをもつ。」	・問題を解決するために既習事項を用いてどのように表したり処理したりする必要があるかについて構想を立てる場面を設定する。
「問題の解決に向けて粘り強く取り組む。」	・一つの方法で解決したあとに、別の方法について考えを述べたり、それぞれの解決方法について検討したりするように促す。
「問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする。」	・児童一人一人が、それぞれのペースで学習を進めることができるように学習時間の柔軟な提供・設定をする。
「筋道を立てて説明し合い、考えを広げたり深めたりする。」	・どのような点に着目して「数学的な見方・考え方を働かせるとよりよく問題解決できたかを振り返る場面を設定する。」
「それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合い、考えを広げたり深めたりする。」	・児童が自分の学びを自覚したり、新たな問いを見いだしたりできるように、何ができるようなったか、ほかにもどのようなことが解決できるのかを尋ねる機会を設ける。
「数学的な見方・考え」とは、 「数学的な見方・考え」……事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念や本質を捉えること 「数学的な考え方」……目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、問題の過程を振り返り、よりよく解決できるように、総合的・発展的に考えること	・具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関係を図る機会を設ける。
「問題の理解を深めたり、概念を形成したりする。」	・目的を明確にした意見の交流や議論などを適宜取り入れる。
	・1人1台端末を活用し、考えを共有しながら話し合うことができるように環境を整える。
	・問題提示の工夫や、児童の発言に問い返すことにより、働かせる「数学的な見方・考え方の自覚を促す。」
	・働かせる「数学的な見方・考え方を」を板書などで示し、可視化する。
	・問題解決の過程を振り返り、学習の過程や成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感する機会を設ける。
	・新たに得た知識や技能を既習事項と関連付け、総合的・発展的に考える場面を設定する。

『小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 算数編』、『算数 道徳 探究』、『算数 道徳 探究』、『算数 道徳 探究』、『算数 道徳 探究』、『算数 道徳 探究』

ICTを積極的に活用するなどして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点からも「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図っていきましょう。なお、授業改善の具体については、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善事例【事例Ⅰ】【事例Ⅱ】【事例Ⅲ】(coming soon)を御参照ください。

○小学校算数科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

令和6年度 在籍指導センター プロジェクト研究(中学校国語科教育研究委員会)

中学校 国語科

第2学年 単元名「根拠の適切さを考えて書こう 意見」

授業改善事例Ⅰ 学習指導計画編

1 単元の目標

- 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができ、
- 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写しえが伝わる文章になるように工夫することができる。 [馬考力、判断力]
- 言葉をもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化の発展に貢献することができる。 [読書力]

2 本単元における言語活動

社会生活の中から、関心のある事柄を選び、意見文を書く。
(関連：[馬考力、判断力])

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解し、(2)ア)	①「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B)(1)ウ)	①積極的に関与し、主体的に学習に取り組む態度を示している。

4 指導と評価の計画(5時間)

時	主たる学習活動	評価する内容
1	○自分の意見が伝わる文章にするために、どのような工夫をするよいかを考える。 ○社会生活の中からテーマを選択し、	
2	○前時に決めたテーマについて、どのような長所や短所があるのか整理し、分析する。 ○テーマについて、賛成・反対の立場を決め、その意見を表せる根拠について考える。 ○同じテーマを選んだ生徒同士で、自分の意見とその根拠について検討する。	[知識・技能] ①
3	○意見文の構成を考え、構成メモを作成する。 ○構成メモを基に、意見文の下書きを書く。	[思考・判断・表現]
4	○意見文を推敲して清書する。	
5	○違うテーマを選んだ生徒同士で意見文を読み合い、意見が伝わる文章になっているか確認して、相互にアドバイスを行う。 ○自分の書いた意見文を振り返る。	[主体的に学習に取り組む態度] ①

令和6年度 在籍指導センター プロジェクト研究(中学校国語科教育研究委員会)

3 本単元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の働きかけの具体例

ここでは、本単元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の働きかけの具体例を紹介いたします。

(1) 「見通しをもつ」姿を実現する教師の働きかけ

生徒の学びの姿	教師の働きかけ
見通しをもつ	単元の始めに、単元の見通しをもつ場面を設定する。

生徒が単元の見通しをもつことができるようにするために、単元の始めに、単元の見通しをもつ場面を設定することが大切です。その際、単元の計画表(資料1)を生徒に提供することで、単元全体の流れや1単元時間の流れについても見通しをもつことができるようになります。

資料1 単元の計画表

また、毎時の板書においても1単元時間の学習の流れを示すようにします。今、何をやっているのか、生徒が常に確認できるように心がけるようにします。ここでは、第3時の板書例(資料2)を示します。

資料2 第3時の板書例

① 単元の目標
毎時間、導入の関心は単元の目標を確認し身に付けたい資質・能力について確認します。

② 本時の目標
本時の目標を示します。

③ 学習活動
学習活動の流れを示します。

④ まとめ
授業の終末には、本時の目標の確認を行い、本時で学んだ内容をまとめるようにします。

⑤ 振り返り
振り返りの視点を示し、自身の学習の状況を捉えることができるようにします。

ポイント
見通しをもつことができるようにするために、単元の始めに、本単元で取り組む言語活動と本単元で身に付けたい資質・能力について説明することが大切です。また、毎時の授業においても1単元時間の授業の流れを共有し、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるようになります。

【個別実践研究】 小学校：社会科、算数科、外国語科、図画工作科、道徳科、学校保健 研究主題 中学校：理科、音楽科、美術科、技術・家庭科（家庭分野）、道徳科 指導と評価の一体化を図るためのコンテンツの開発

○個別実践研究コンテンツの作成（一部）

学習指導プラン

令和6年度 佐賀県教育センター 個別実践研究（小・中学校各教科・領域）

学習指導プラン

中学校理科第3学年
単元名 力学的エネルギー、エネルギーとエネルギー資源

内容のまとまり
第1分野 (5)運動とエネルギー、(7)科学技術と人間

1 本単元で扱う学習指導要領の内容
第1分野 (5)運動とエネルギー
ア 物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、その観察、実験などに関する技能を身に付けること。
イ 運動とエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行う。力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現すること。また、日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、技能を身に付けること。
ア エネルギーと物質
イ エネルギーとエネルギー資源
様々なエネルギーとその変換に関する観察、実験などをエネルギーの変換を利用していることを見いだして理解すること。
イ 日常生活や社会で使われているエネルギーについて、見通しを持って結果を分析して解釈すること。

2 単元の目標
(1) 力学的エネルギーとエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、エネルギーの保存、エネルギーについての基本的な概念や原理・法則の観察、実験などに関する技能を身に付けること。
(2) 力学的エネルギーとエネルギーについて、見通しをもって観察、実験し、力学的エネルギーとエネルギーの規則性や関係性を見いだして振り返ること。
(3) 力学的エネルギーとエネルギーに関する事象・現象に進んで関心を養うこと。

中学校理科 学習指導プラン

展開

3 実験の計画を基に各班で実験を行う。
・おもりを落下させ、発電機を回転させて発電し、豆電球を光らせる。このとき、電圧計と電流計の値、おもりが落下する時間を記録する。
・実験の結果を1人1台端末に入手し、共有する。
・求めたエネルギー変換効率の値が妥当かどうかを検討する。

4 各班の実験の結果を基に作成したグラフを参考に、発電機を回転させるために加える力と発電機のエネルギー変換効率の関係を見いだし、考えをまとめる。
5 身の回りで用いられている発電機のエネルギー変換効率について知る。

6 本時の評価規準と判定基準
本時の評価規準【評価方法】
○実験の結果を分析して解釈し、発電機を回転させるために加える力と発電機のエネルギー変換効率の関係を見いだし、考えをまとめる。
【記述分析】
○「十分満足でき」状況 (A) の例
・実験を行い、その結果を分析して解釈し、発電機を回転させるために加える力と発電機のエネルギー変換効率の関係を見いだし、グラフの具体的な特徴を捉え、示すなどして考えをまとめる。
・「努力を要する」状況 (C) と評価した生徒に対する指導の手立て
・キーワードを書き入れた記述のモデルを参考とし、同じ班のメンバーのまとめた方を参考にしたりすることで、考えをまとめるように促す。

終末

1 位置エネルギー
① おもりの位置エネルギー
② 落下時間
電気エネルギー
2 電気エネルギー
① 電圧計と電流計の値を読み取る。
② 落下時間を計測する。
3 発電機のエネルギー変換効率を求める。
エネルギー変換効率 = $\frac{\text{電気エネルギー}}{\text{位置エネルギー}} \times 100$

2 課題の解決に向けて実験の計画を立てよう。
① おもりの位置エネルギー
② 落下時間
電気エネルギー

ワークシート等

理科学習プリント

1 学習課題を確認しよう。
あなたはある自転車メーカーに勤務する研究員です。あなたは、自転車メーカーで自転車のライトに用いられている発電機について研究しています。そこで、今の発電機がどれくらい効率よく電気を発生しているのかを研究するために、まず、以前に使われていた自転車のライト用の発電機について調べることになりました。
調べる内容は、発電機を回転させるために加える力と発電機のエネルギー変換効率などのような関係になるかについてです。
発電機は性能上、加える力は最大で10Nまでとし、エネルギー変換率は以下の式を参考にして求めること。100gのおもりに対しては重力は1Nとします。
エネルギー変換効率 = $\frac{\text{利用できるエネルギー}}{\text{消費したエネルギー}} \times 100$

3 実験の結果を記入しよう。
【実験】豆電球 2.5V-0.3A用

質量 (g)	重力 (N)	落下距離 (m)	位置エネルギー (J)	電圧 (V)	電流 (A)	落下時間 (s)	電気エネルギー (J)	エネルギー変換効率 (%)

2 課題の解決に向けて実験の計画を立てよう。
① おもりの位置エネルギー
② 落下時間
電気エネルギー

3 実験の結果を記入しよう。
【実験】豆電球 2.5V-0.3A用

質量 (g)	重力 (N)	落下距離 (m)	位置エネルギー (J)	電圧 (V)	電流 (A)	落下時間 (s)	電気エネルギー (J)	エネルギー変換効率 (%)
100g								
200g								
300g								
400g								
500g								
600g								
700g								
800g								
900g								
1000g								

4 グラフから分かることを記入しよう。
【記述に先ず評価 (部)】
計画を立てている様子と記述の内容を評価の資料として扱います。

5 学習を振り返って、気付きや感想を書こう。

3年 () 組 () 号 名前 ()

中学校理科 ワークシート

○授業公開と授業研究会の実施

令和6年度 佐賀県教育センター 授業公開(第2次案内_7月開催)

プロジェクト × 個別実践研究

小学校算数
7月1日(月) [定員25名]
14:00~14:45 授業
15:00~15:45 授業研究会
神埼市立西郷小学校
授業者 教諭 小林 由紀子
第3学年 「表と棒グラフ」

中学校美術
7月2日(火) [定員20名]
14:05~14:55 授業
15:05~15:55 授業研究会
小城市立小中一貫校芦刈観瀾校
授業者 教諭 江越 晶子
第9学年 「日本と西洋の美術文化
~それぞれのよさや
美しさを味わおう~」

小学校国語
7月4日(木) [定員20名]
13:45~14:30 授業
14:45~15:30 授業研究会
佐賀市立南川副小学校
授業者 教諭 野口 麻由美
第4学年 「文章の構成を考えて
物語をつくらう」

中学校理科
7月4日(木) [定員15名]
14:10~15:00 授業
15:10~16:00 授業研究会
鳥栖市立鳥栖中学校
授業者 教諭 館 亮輔
第3学年 「力学的エネルギー、
エネルギーとエネルギー
資源」

中学校国語
7月5日(金) [定員20名]
13:40~14:30 授業
14:40~15:30 授業研究会
白石町立白石中学校
授業者 教諭 蒲原 裕子
第2学年 「根拠の適切さを考えて
書こう 意見文を書く」

授業を参観し、児童生徒のよりよい
学びにつながる授業づくりについて
一緒に考えてみませんか?
ぜひ、御参加ください。

《申込みはコチラ》

※申込締切は、各授業公開日の1週間前とします。
なお、申込人数には定員がありますので、先着順、
定員となり次第、締切とさせていただきます。
※申込みは、所属校の管理職を通して行ってください。
※参加決定者には、後日メールにて、詳細を御連絡
いたします。
【申込フォームURL】
<https://forms.office.com/r/z3c4988888>

《問合せ先》

佐賀県教育センター
佐賀県佐賀市大和町大字川上
TEL 0952(62)5214
【研究調査担当】

令和6年度 佐賀県教育センター

教育センター所員による授業公開(第2次案内_9月開催)

中学校数学科(プロジェクト研究)

「主体的・対話的で深い学び」
の実現に向けた授業改善

中学校数学科における、「主体的・
対話的で深い学び」の実現に向けた
授業改善の具体を提案します!

9月24日(火) [定員20名]

授業者 佐賀県教育センター 13:00~ 受付
所員 原 正和 13:10~ 開会
(中学校数学科担当) 13:25~14:15 授業
第3学年 「二次方程式の利用」 14:30~15:40 授業研究会
会 場 佐賀市立昭栄中学校 15:40~16:00 閉会

中学校
数学

小学校算数科(個別実践研究 小・中学校各教科・領域等)

「指導と評価の一体化」を
図る授業づくり

児童の活動の様子やノートの記述
を基に、小学校算数科における
「指導と評価の一体化」を図る授
業づくりの具体を提案します!

9月27日(金) [定員30名]

授業者 佐賀県教育センター 13:20~ 受付
所員 廣瀬 圭吾 13:35~ 開会
(小学校算数科担当) 13:55~14:40 授業
第4学年 「簡単な場合についての割合」 15:00~16:10 授業研究会
会 場 唐津市立相知小学校 16:10~16:30 閉会

小学校
算数

《申込みはコチラ》

※申込締切は、各授業公開日の1週間前とします。
なお、申込人数には定員がありますので、先着順、
定員となり次第、締切とさせていただきます。
※申込みは、所属校の管理職を通して行ってください。
※参加決定者には、後日メールにて、詳細を御連絡
いたします。
【申込フォームURL】
<https://forms.office.com/r/r9d9wububcb>

《問合せ先》

佐賀県教育センター
佐賀県佐賀市大和町大字川上
TEL 0952(62)5214
【研究調査担当】

実施日	教科名	受講者数
7月1日	小学校算数	10名
7月4日	小学校国語	15名
7月5日	中学校国語	7名
7月2日	中学校美術	7名
7月4日	中学校理科	10名
9月24日	中学校数学	20名
9月27日	小学校算数	25名

教育支援課 <研究調査担当> <生徒支援担当>

5 学校支援

学習状況調査の分析・活用に係る学校支援

	学校支援件数	内訳			
		小学校	中学校	小・中合同	県立
令和6年度	59件	45件	7件	6件	1件

6 学校支援

教育相談・生徒指導、特別支援教育に係る学校支援

	学校支援件数	内訳	
		教育相談	特別支援教育
令和6年度	88件	46件	42件

教育支援課 〈研究調査担当〉

○図書資料室管理

「教育情報の共有化」を目指して、教育に関する諸資料を収集し、情報を提供することで、県内教職員の教師力、学校力向上を支援する。

○広報業務

【メールマガジン(ミネルバ)】

教育センターWeb及び登録した個人に、教育センターの研修、研究、支援等に関する情報を提供する。毎月1回以上、時宜を得た情報を配信し、県内教職員の研修をサポートする。

【SNSアプリ「LINE」】

教育センター公式アカウントを立ち上げ、教育センターの取組や研究成果物の周知等、登録者に適宜、情報を発信する。

★います★登録!★

教育センターからの旬な情報をお届けします！
子どもたちの生き生きとした学びにつながる、
役立つ情報が満載です。



URL : <https://www.saga-ed.jp/riyou/e-mail-magazine/>

佐賀の先生方を全力サポート!

★—★ 佐賀県教育センター ★—★
メールマガジン『ミネルバ』
第〇〇〇号(令和6年〇月)2024.〇.〇
SAGA Prefectural Education Center
★—★



- 第2弾！教育センター所員による授業公開【〇月】
大好評だった第1弾教育センター所員による授業公開。第2弾を以て授業の展開、ポイントの押さえ方、児童生徒への声掛けの実態などをご紹介します！
- 更新！日々の授業づくりや授業改善に役立つコンテンツ
プロジェクト研究や個別実践研究のコンテンツをWebアップメントを示しています。ぜひ、御活用ください！
★小学校★
〇〇科、〇〇科
★中学校★
〇〇科、〇〇科
→「授業改善に役立つコンテンツ」についてはこちら
- 学校支援の申請について
教育センターで提供している、「研究」「研修」「学校支援」というその中の「学校支援」では、学校の様々なニーズに応えられるようになります。申請方法も、とても簡単です。まずは、各教科・領域等を担っています。
→「支援の申込み」についてはこちら
→「レファレンス」についてはこちら
→「メールマガジン配信登録・解除」についてはこちら

日々の授業づくりや授業改善に役立つコンテンツの発信

プロジェクト研究(中学校音楽科・美術科)



個別実践研究(中学校国語科・社会科)



支援の申込み



佐賀県教育センター LINE公式アカウント はじめました！



公式アカウントID: @035eqoof

研究に関する
情報の発信



教育講演会
の案内



LINEの「友だち追加」から
ID検索をするか、
QRコードをスキャン
してください。



友だち追加
お願いします

教育センター
Webへのリンク



公開授業の
案内



お問合せ:佐賀県教育センター 教育支援課研究調査担当 TEL:0952-62-5214

研究成果のちらし

令和6年度 佐賀県教育センターの研究成果

**プロジェクト
研究
(1/2年次)**

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

小学校 国語科、算数科 中学校 国語科、数学科、英語科



各教科における
「主体的・対話的で
深い学び」
もう一度確認！



目指す「児童生徒の
学びの姿」と、その学
びの姿を実現する
「教師の働きかけ」
双方の視点から
アプローチ！

今後、授業改善事例を
随時発信する予定です。
乞う御期待!!

主体的な学び 日常生活 対話的な学び 課題設定
発問 ICT 深い学び 見方・考え方
課題解決 個別最適な学び 学びたくある工夫

令和6年度 佐賀県教育センターの研究成果

**個別実践
研究
小・中学校
各教科・領域等**

指導と評価の一体化を図るための コンテンツの開発

★学習指導プラン

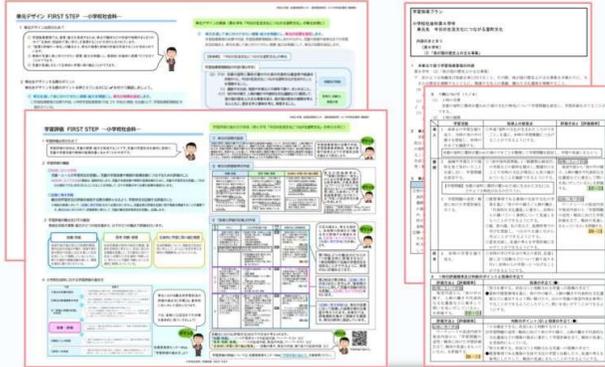
…指導と評価の一体化を図るために、「単元（題材）デザイン FIRST STEP」と「学習評価 FIRST STEP」を基にした学習指導案のこと。



小学校
社会科
算数科
図画工作科
外国語科
道徳科
学校保健

中学校
理科
音楽科
美術科
技術・家庭科
(家庭分野)
道徳科

※随時発信予定



資質・能力の育成に
向けて、指導と評価
の一体化を図る授業
づくりが分かる！

指導と評価の一体化 指導に生かす評価 ICT
三観点 資質・能力の育成 単元（題材）を通じた授業づくり
指導と評価の計画 学習の見通し 記録に残す評価

令和7年度事業の構想

○研究調査事業の推進・充実

- ・ 各教科における「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けたコンテンツづくり
- ・ 若手教員が活用しやすいようなコンテンツづくり

○学校支援の充実

- ・ **各教科・領域等**の指導法改善に係る支援
- ・ 研究発表会、授業研究会、教科部会等での資料提供